

地域研究センター共同研究最終成果報告書

南山大学地域研究センター共同研究「EU 統合の理念と現実」研究会では 2006 年から 3 年間の研究成果として『大学と学問の再編成に向けて』を発行いたしました。

南山大学地域研究センター共同研究最終成果報告書
(2006～2008 年度)

『大学と学問の再編成に向けて』



2009 年発行

編集: 南山大学地域研究センター委員会

研究代表者 加藤 泰史(南山大学外国語学部)

	地域研究センター共同研究「EU 統合の理念と現実」について	加藤泰史
1	EU 統合とグローバリゼーションの問題 ——カント的観点からのアプローチ——	加藤泰史
2	リスポン戦略に始まる EU 年金政策の新たな展開	大矢津晴夫
3	平等とは何である/ないのか ——「現代ドイツ平等主義批判論」研究・序説——	高畑祐人
4	対応説としてのカントの新理論	ゲアハルト・ シェーンリヒ
5	規則に従うことの制度化?—モデルとしてのカントの法状態—	ゲアハルト・ シェーンリヒ
6	戦争の記憶と記憶の戦争 ——フランスにおける植民地主義の評価をめぐる論争——	丸岡高弘
7	多国籍企業の支配に対する不安に揺れるヨーロッパ	アルロス・ モースミュラー
8	ヨーロッパ統合のなかのドイツの政治教育	近藤孝弘
9	モーツァルト『後宮からの誘拐』をめぐって	中尾健二
10	カルチャー・ショック ——異文化間の相互理解をいかに評価すべきか——	アンドレアス・ リースラント
11	CSR とくピラミッドの最底辺>アプローチ ——<最貧困層>に対する西側企業の取り組みはいかに具体化されるか——	リュディガー・ ハーン カロリーナ・グ リュンシュロス

12	ドイツにおける企業倫理—分析と傾向—	田中美紀子
13	定言命法と道德の限界問題	ラインハルト・ ブラント
14	法則(義務)としての善と法則外部の善 —カント的義務倫理は応用倫理の問題に通用しないのか—	高畑祐人
	2006 年度活動報告	
	2007 年度活動報告	
	2008 年度活動報告	